

第5回FDフォーラム開催される

去る3月25日(月)ハイテク・リサーチ・センターにおいて、第5回FDフォーラムが約55人の参加者を得て開かれた。今回のフォーラムは、『Webの教育への活用と電子化支援』というテーマに基づくものであり、「学術情報センターにおける支援環境の現状と今後の方針」(水島章次・学術情報センター長・教授)「教材の電子化支援と活用へのサポート体制」(杉山恵子・教育技術員)「授業録画と電子化教材」(竹森一正・経営情報学部教授)と題する基調報告がそれぞれ行われた。

水島センター長は、教材の電子化や授業作りにWebを活用することのメリットと現状を報告し、これまで情報化推進委員会による調査を行い、1998年9月から教育用Webサーバの暫定運用を開始したこと、2001年の夏期にはWebサーバをさらに強化してきた経緯などを紹介した。そして水島センター長は、平成10年後期より教育用Webサーバを活用した授業科目の変遷を資料として提示し、利用科目数は漸次増えている状況にあるものの、ダイヤルアップ回線の運用、可搬型カードリーダーの利用、学科・研究室紹介Webサイトの整備、学生用Webサーバの公開などの課題と取り組む必要があると、今後の問題を提起した。

続いて、杉山教育技術員は、教材の電子化を支援する具体的なプロセスを説明し、学術情報センターの支援として、

汎用的なテンプレートの提供、講習会の実施、加工作業のサポートなどを保証することができる」と述べ、授業形態に応じた Web ページを作成し、教材の電子化に取り組むことの重要性を呼びかけた。



FD フォーラム会場風景

さらに、竹森教授は、担当科目である「原価計算論」において、練習問題の計算過程の解説を録画し、Web ページに公開している様子を紹介した。とくに、試験時に Web ページで学生と対応する実例、試験結果の開示を利用する方法などは、学生の勉強や生活上の動機付けに対して、竹森教授の斬新な工夫が見られたため、フォーラム参加者の興味や関心を呼んだ。

報告の後に活発な討論が行われ、勉学への動機付けや教育効果をあげるために、Web の利用と教材の電子化を図る必要性があるという意見が多く出された。しかし並行して、人間的な指導や顔の見える教育も、看過すべきではないという意見も多く出された。

国際文化学科・教授 河内信幸